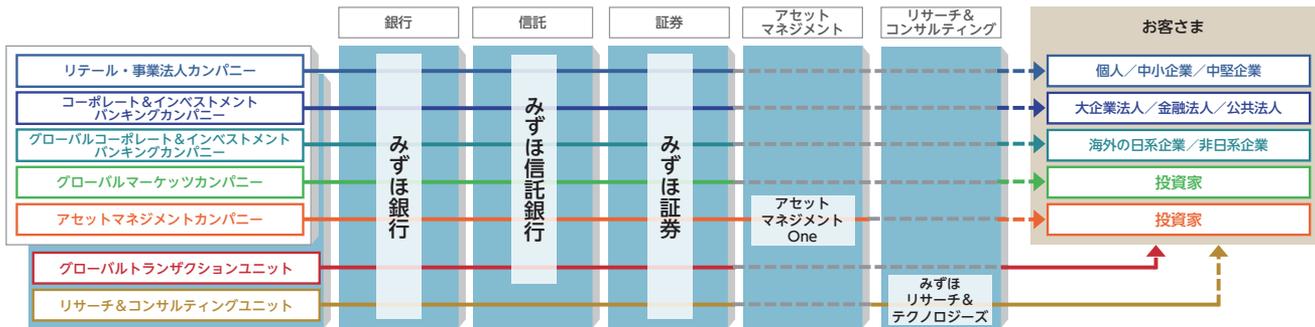


カンパニーの状況

グループ体制



Retail & Business Banking Company

リテール・事業法人カンパニー

事業概要

個人・中小企業・中堅企業の顧客セグメントを担当するカンパニー

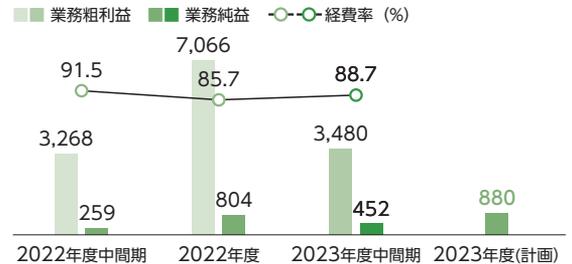
2023年度中間期の実績

人生100年時代や資産・事業承継、SX・DXといった、お客さまを取り巻く課題に対して、個人のお客さまの豊かさの増進や法人のお客さまの成長戦略・事業構造改革の支援に取り組んでいます。

2023年度中間期は、個人のお客さまに対し、お客さまの立場で考え、誠心誠意行動し、多面的な提案を実践することで運用ビジネスが拡大、法人のお客さまに対しては、成長戦略ニーズを捉えた高採算貸出の拡大により貸出金収支が増加、これらに加え、金利上昇を背景とした預金収支増加により、業務粗利益が2022年度中間期対比で211億円（約6%）増加しました。併せて、効率的な経費運営により、業務純益は前年同期比増加しました。

業務粗利益・業務純益の推移（億円）

（グループ合算、管理会計、概数）



※年度の計数を、23年度管理会計ルールに組み替えて算出（業務純益にはETF関連損益等を含む）

Corporate & Investment Banking Company

コーポレート&インベストメントバンキングカンパニー

事業概要

国内の大企業法人・金融法人・公共法人のお客さまを担当し、プロダクツ（M&A、不動産等）をグループ横断で提供

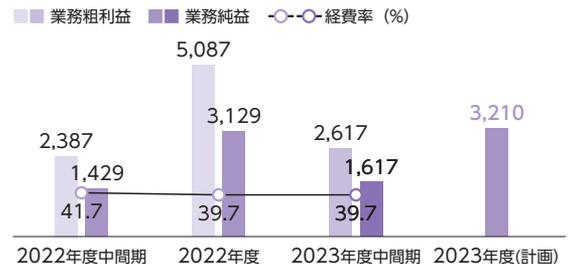
2023年度中間期の実績

サステナビリティへの社会的関心の高まり等により、様々な構造転換が加速している環境下、社会課題の解決に取り組み、お客さまの価値向上への支援を通じて、産業・経済・社会の持続的成長・発展に貢献しています。

2023年度中間期は、産業知見の強みを活かした大型の企業再編案件等への関与に加え、不動産やSI^{※1}領域といった注力分野への取り組みを通じて、業務粗利益が前年同期比230億円（約10%）増加しました。併せて経費を一定の範囲内に抑制することで、業務純益は増益となりました。

業務粗利益・業務純益の推移（億円）

（グループ合算、管理会計、概数）



※年度の計数を、23年度管理会計ルールに組み替えて算出（業務純益にはETF関連損益等を含む）

※1. ストラテジック・インベストメント。エクイティ・メザニン等の資本性ファイナンス分野

グローバルコーポレート&インベストメントバンキングカンパニー

| 事業概要

海外に進出する日系および非日系企業等のお客さまに、グループ一体でソリューションを提供

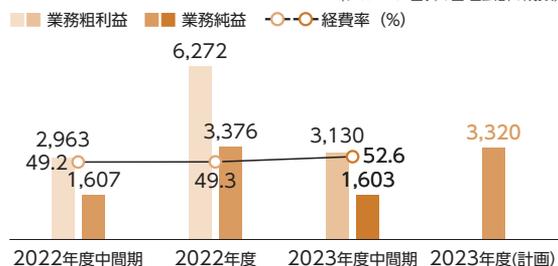
| 2023年度中間期の実績

米国資本市場における高いプレゼンスや、アジア経済圏における充実したネットワーク等を活かし、各地域のお客さまに総合的な金融ソリューションを提供しています。

2023年度中間期は、グローバルなインフレ進行等の先行き不透明感から貸出資金需要は伸び悩み、業務純益は前年同期比微減となりました。米国M&Aアドバイザー会社Greenhillの買収の完了や欧州大陸においてユニバーサルバンクを設立し銀行・証券の拠点を集約する方針を決定する等、グローバルCIBモデルの深化、事業基盤の強化を着実に進めました。

業務粗利益・業務純益の推移（億円）

(グループ合算、管理会計、概数)



※年度の計数を、23年度管理会計ルールに組み替えて算出（業務純益にはETF関連損益等を含む）

Global Markets Company

グローバルマーケットカンパニー

| 事業概要

市場商品を提供するセールス&トレーディング (S&T) 業務、ALM・投資を行うバンキング業務を担当

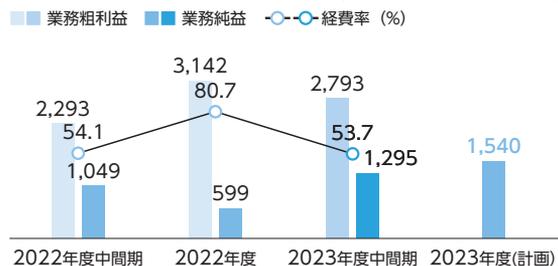
| 2023年度中間期の実績

セールス&トレーディング業務においては、各地域での銀行・証券実質一体運営の深化に注力しています。バンキング業務においては、不確実性の高い市場環境が継続する中、安定的な収益実現に努めています。

2023年度中間期は、セールス&トレーディング業務では、顧客フローを的確に捕捉し、米州・国内中心に好調に推移しました。バンキング業務は、抑制的な運営を基本としつつも、相場動向を捉えた機動的なオペレーションや資金収支の底上げにより、実現益を積み上げました。結果、カンパニーの業務純益は1,295億円と前年同期比増加しました。

業務粗利益・業務純益の推移（億円）

(グループ合算、管理会計、概数)



※年度の計数を、23年度管理会計ルールに組み替えて算出（業務純益にはETF関連損益等を含む）

Asset Management Company

アセットマネジメントカンパニー

| 事業概要

個人から機関投資家まで幅広いお客さまの資産運用ニーズにグループ一体となって運用商品やソリューションを提供

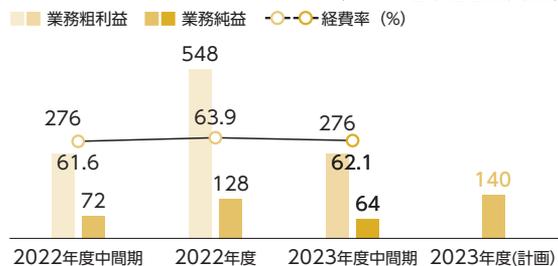
| 2023年度中間期の実績

NISAやiDeCoといった税制度の後押しもある個人のお客さまの中長期的な資産形成ニーズや、機関投資家のお客さまのオルタナティブ投資も含めた運用多様化のニーズに応えるため、「選択と集中」による運用力の強化やプロダクトラインアップ・ソリューション提供の充実に取り組んでいます。

2023年度中間期の業務粗利益は前年同期並みの推移も、持分法による投資損益の影響により業務純益は減益となりました。新NISAによる運用ニーズ増加に応えるべく、「みずほ日本オールキャップ株式ファンド」の導入や「たわらノーロード」シリーズのプロモーションを行い、2023年度中間期のAUMは2023年3月末対比増加となりました。

業務粗利益・業務純益の推移（億円）

(グループ合算、管理会計、概数)



※年度の計数を、23年度管理会計ルールに組み替えて算出（業務純益にはETF関連損益等を含む）